

あしがら 農の会

通信 12月号

第128号

2012年 12月4日発行

発行

NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ

<http://nounokai.com/>

代表 松本 邦裕 090-1735-3748(携帯)

編集 石井 智子 0465-32-1467(TEL/FAX)

bombalurina@savanna.dti.ne.jp

有機の仲間たち・其の十二

うまい! 安心安全な野菜、果物作りを目指して

60年前高校を卒業した私は父親の後を継ぎ青果業を営む決心をしました。店頭販売だけではお客様が少ないので、行商やお宅を訪ね注文をとったり、工事業者の飯場へもお届けするなどの工夫をしました。しかし、このままではいけない、自分の夢に向かって突き進むためには発想の転換が必要だと考えた私は、小田原では前例の少なかったセルフサービスのお店をスタートさせました。これは現在のスーパーマーケットの先駆者ともいえる様式です。その後集客力のある場所を求め、まずは小田原駅前にも間口2間奥行き1間の店舗を借り、早朝から夜は11時過ぎまで営業。その後も鴨宮、関本、松田駅前にも出店しました。

毎朝の仕入で感じたことは、地元産の野菜が少なく、その理由としては生産者の高齢化、農地が宅地化されアパートや店舗となる事などにあり、青果市場では埼玉、千葉、山梨、長野、栃木県産の品々が主流となっていました。ちょうどその頃、友人から根府川に5反程のみかん畑があるがここを減反で農地として利用できないかとの相談をもちかけられました。そこで私はミニトマトの水耕栽培を提案し、その為に必要となる「農家」の資格を得るために、三年後には農事組合法人を設立しました。現在でも農家の資格取得は難しい事ですが、当時は更に困難で、県や農業委員会に何度も足を運びました。それでも私は役員の資格を得ることは出来なかったのです。結果、根府川の土地は解約せざるを得ず、新たに知人を代表者としたグループの一員として野菜作りを基礎から教えて頂きました。平成元年、農事組合法人「報徳農場生産組合」を設立。5畝ほど

報徳農場さん

地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

小麦の会: 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

の土地をお借りし、玉葱、じゃが芋、小松菜、さつまいも、南瓜を無農薬で栽培しヤオマサに卸すことを考えました。しかし店舗側からは「無農薬だから安心というだけでは駄目。農業の技術が十分に伴っていないのでこの商品は売れない」と断られてしまったのです。この結果を受け私は北海道の有機JASの人参畑、熊本の玉葱、水菜畑等を見学し、結論として報徳農場の農業技術の未熟さを痛切に感じ、慣行の農薬、化学肥料の成分を50%以下におさえることを実行しました(平成21年にエコファーマーの資格を取得)。平成12年度ついに農家の資格を取得、20年には認定農業者となり現在は水稻、小松菜、ハウレン草、梅、柿、みかん等合計約6町5反、社員5名、援農ボランティア15名で耕作しております。

最後になりますが、平成21年2月に「小田原有機の里づくり協議会」が設立され、私も参加させて頂きました。あしがら農の会の皆様とも夢やなやみを共有しつつ頑張りたいと考えております。

現在、ふれあい農園(小田原市、大井町、松田町)15坪~60坪で150区画ございます。私達は新規就農者を応援させて頂き、「うまい・安心・安全」な果物、野菜作りに邁進したいと考えております。

* 援農ボランティアさんを募集しています。日曜日以外8時~12時

お問合せ
☎(83)1188

株式会社
報徳農場
代表取締役
田嶋 享



